

社会保障 安心

※ 次回の社会保障面は22日掲載予定です。

若者の働く環境が悪化している。過重労働を強いられ、短期間で使い捨てにされる正社員。低賃金・不安定雇用のうえに、サービス残業を強要される非正規労働者。就職難を背景に、若者を都合よく使う動きが新興企業などで目立ち、雇用形態を問わず、その状況は厳しい。若者が安心して働ける環境の整備は、社会の安定と経済の成長の基盤だ。

■ 残業代ゼロ

「正社員」を掲げて新卒を呼び込み、初めから厳しいノルマを課すなどして酷使した揚げ句、ついでに来られないとパワハラで退職に追い込む。就職難の深刻化による圧倒的な「買い手市場」を背景に、こうした悪質な企業が現れ、社会問題化している。

「これからお前たちは奴隷だ」。一昨年、有名私大を卒業後、正社員としてアパレル関連の中小企業に就職した男性(25)は、入社式での社長の言葉が忘れられない。

営業職で月給は約20万円。仕事量が多く残業が毎月約100時間に上ったが、残業代はゼロ。誰も指導や助言はしてくれず、ミスすれば殴られた。休日も呼び出され、社長の買い物の運転手をした。

5人いた同期のうち3人が半年以内に辞めた。男性は1年半耐えたが、体調を壊して親に出勤を止められ、昨秋に退職。「70社も回ってやっと出た内定。新卒で辞めると再就職も大変だし、何とか続けようとしたが、限界だった。もう組織で働くのが怖い」

若者の労働相談に応じているNPO法人「POSSIBLE(ポッセ)」(東京)には、異常な長時間労働や残業代不払い、パワハラなどで心身に不

若者の働く環境悪化

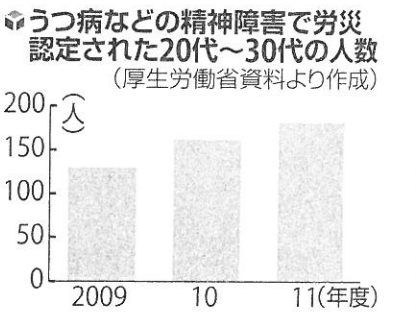
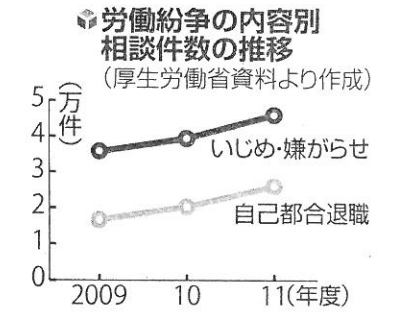


① 淑徳大埼玉キャンパスは、ハローワークの相談窓口を設置し、優良な企業への就職を後押ししている(埼玉県三芳町の同大) ② 長く働き続けられる企業かどうか。慎重に就職先を探す若者たち(東京・新宿の「東京新卒応援ハローワーク」で)

「買い手市場」で過重労働

調を来した若い正社員が駆け込んでくる。2012年の相談件数は約800件。以前は相談者の多くが非正規労働者だったが、08年のリーマン・ショック以降、正社員が急増している。

同法人の今野晴貴代表は、「若者を取り換えのきく部品とみなし、育てようという意識のない企業が増えている。若者の辛抱が足りないという話ではない」と指摘する。使い捨てを前提に多数を採用し、「正社員なんだから」「代わりはいくらでもいる」と脅して酷使する。IT業界など新興企業で目立ち、「ブラック企業」と呼ばれている。労働政策研究・研修機構の



濱口桂一郎統括研究員は「従来、日本の企業では若い頃に激務を課されるのが普通だったが、終身雇用と年功賃金という『見返り』とセットだった。ブラック企業は、長く雇うつもりがなく、『見返り』のない減私奉公を強いる点で全く違う」と解説する。厚生労働省によると、ここ

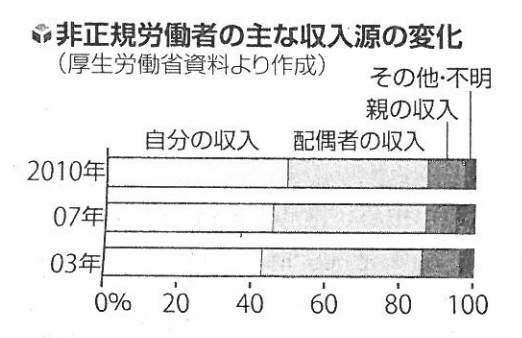
数年、職場の「いじめ・嫌がらせ」や、不意な「自己都合退職」に関するトラブルが増加。うつ病など精神障害で労災認定される若年層も増えている。「働く環境の悪化が影響している」と(同省幹部)。今や、正社員だから安定しているとは言えない状況だ。

悪質な企業から若者を守るうとする動きもある。淑徳大学埼玉キャンパス(埼玉県三芳町)では10年以降、ハローワークと連携して地域の優良な企業の情報を学生に提供。厚労省も今年度から、同様の取り組みを全国20大学で展開するほか、若者の採用・育成に積極的な企業を「若者応援企業」に認定し、ホームページなどで公表する。

■ 若者応援企業認定

「若者応援企業」認定。悪質な企業から若者を守るうとする動きもある。淑徳大学埼玉キャンパス(埼玉県三芳町)では10年以降、ハローワークと連携して地域の優良な企業の情報を学生に提供。厚労省も今年度から、同様の取り組みを全国20大学で展開するほか、若者の採用・育成に積極的な企業を「若者応援企業」に認定し、ホームページなどで公表する。

ただ、若者側の自己防衛には限界がある。明治大の遠藤公嗣教授は、「日本では残業時間の規制が緩く、健康を害するような長時間労働を許している。欧州諸国では、24時間につき最低連続11時間の休息を定めており、日本でも導入すべきだ」と強調する。



非正規労働者の処遇改善も欠かせない。低賃金・不安定雇用への恐れが、正社員を過重労働に追い立てている。遠藤教授は「雇用形態にかかわらず、職務に応じて適正な賃金が支払われる仕組みにする必要がある」と指摘している。